

葉っぱの手触り

■プログラムの概要

ねらい	自分でみつけた葉っぱを使いゲームやこすりだしをすることで、葉っぱにいろいろな特徴のあることを視覚、触覚から気付く。		
キーワード	身近な自然		
対象	幼児		
時間	60分	実施場所	公園や園庭、室内
使用するもの	落ち葉、クレヨン、上質紙、はさみ、のり、紙テープ		
全体の流れ	<ol style="list-style-type: none">1. 導入2. 材料の葉っぱ探し3. さわってあてっこゲーム4. こすりだし5. まとめ		

■進め方

時間	学習内容	指導上の留意点
5分	<p><導入></p> <ul style="list-style-type: none"> • 活動の流れを話す。 	
20分	<p><材料の葉っぱ探し></p> <ul style="list-style-type: none"> • 園庭や周辺へ出て、落ちている葉っぱを探す。 	<ul style="list-style-type: none"> • 枚数を競うのではなく、お気に入りの2、3枚を探す。
15分	<p><さわってあてっこゲーム></p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分の葉っぱを観察したり、なでたりしてみる。 • お気に入りのうちの1枚を出し合い、交換してさわってみる。 • ひとりが目をつぶり、手渡されたお気に入りのうちの1枚を触ってみる。目を開け、出されたお気に入りの葉っぱの中のどれかをあてる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 葉っぱをくずさないよう、やさしくさわるよう伝える。 • 4、5人のグループで行う。 • 同じ種類の葉っぱが複数そろっても、触っていくなかで特徴や違いに気づけるような声かけを行う。
10分	<p><こすりだし></p> <ul style="list-style-type: none"> • 各グループでお気に入りの葉っぱをこすりだし、輪郭を切り取って1本の紙テープに貼りつける。 • こすりだしたものの反対側に、葉っぱも貼り付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • こすりだした紙にのりをつけ、紙テープを葉っぱとはさむようにしてはりつけるとやりやすい。
5分	<p><まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> • できたものを窓辺にカーテンのようにつるす。 • 子どもに感想をきく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 時間があればグループごと前に出て見せ合う。

■使用するもの

物 品 名	数 量	備 考
落ち葉	1人当たり2～3枚	
クレヨン	人数分	
上質紙	人数分	
はさみ	人数分	
紙テープ	グループ数	
のり	必要に応じて	

■実施にあたって留意する点

- わかりやすい教材を用意しておき、自分の葉っぱと手触り感を比較させてもよい。
- こすりだしは、色にはこだわらず形が浮き出るということを楽しんでいく。
- 普段から“触る”という活動を取り入れる（葉っぱ、木の肌、花、実、枝、土、生き物の体など）。また、触ったときの感覚を表現する語彙の確認をしておく。
- 継続活動として子どもが感じとった言葉を大切にし、その言葉と「似たもの」「同じようなもの」を探したり、見つけたりしても楽しめる。
- 葉っぱを押し葉にして保存しておき、活動を二回に分けてもよい。
- 成果物として、カーテンにして吊るすようにしたが、絵の具で描いた木(制作例・みんなの木)に貼るなどいろいろな工夫をすることができる。



◇制作例・みんなの木